

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	豊浦町立豊洋中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	1	9	19
生徒数	76	76	81	2	235	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「主体的に学習に取り組む生徒の育成」 ~個が生きる指導方法、指導体制の構築をめざして~</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・数学科全学年、英語科2年、理科2年における少人数指導 (子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため) ・選択教科全学年 (発展的な学習や、補充的な学習を研究していくのにふさわしく、全教員が取り組めるため) ・全学年全生徒対象 学習習慣支援 (学習習慣の定着による学習意欲の向上と学力向上は相関があると考えられるため)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>研究組織に分かれての現状認識・課題認識</p> <p>仮説</p> <p>各研究部で試験的な試みを行い、データを集積し、その中で現状認識を新たにし、本校生徒の実態を十分に把握することで、学力向上に対してどのような取組を全校体制で実施していくことがふさわしいかが見えてくると</p>
--------	--

考えられる。

研究内容・方法

3つの研究部に分かれて研究を行う

- ・指導研究部

数学・英語の少人数指導を中心に、生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導の工夫改善を行い、いかにして基礎・基本を確実に定着させるかについて研究を深める。

- ・選択教科研究部

選択教科における、補足的な学習や発展的な学習など、一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導について研究を深める。

- ・学習支援研究部

授業以外の場面で、いかにして生徒を支えるか、学習環境の改善や生徒による主体的な委員会活動の充実などについて研究を深める。

平成
15
年
度

テーマ

研究組織に分かれて、課題解決への取組

各教科において、生徒による授業評価を導入し授業改善を図る

仮説

一年次の取組を継続すると共に、一年次の試験的な試みにおいて認識された課題について、別の検証方法により研究を進め、問題解決を行っていくことで、学力向上が具現化したものとして現れると考えられる。

研究内容・方法

3つの研究部に分かれて研究を行う

- ・指導研究部

少人数指導における習熟度別クラス編成について、指導法、教材教具、の開発や適切な評価のあり方について研究を深める。

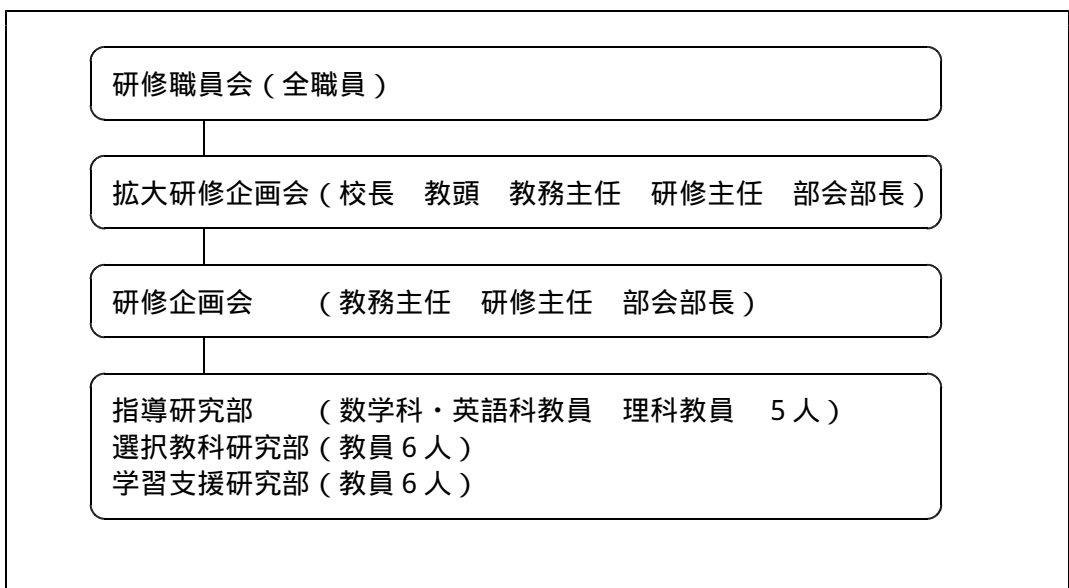
- ・選択教科研究部

補足的な学習における指導方法について、教材の開発も含め、実践事例の蓄積と検討を行う。発展的な学習について、生徒の学習意欲を高める指導

	<p>法について、実践事例の蓄積と検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援研究部 <p>学年・学級単位での活動を全校体制に発展させていく。</p> <p>全校体制での活動の見直し・改善を行う。</p> <p>「基礎的事項を確実に習得させる時間」について実施方法の検討、実践を行う。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>研究組織ごとの活動の融合と、3年間の研究のまとめ</p> <p>仮説</p> <p>一年次、二年次の活動を継続すると共に、部会ごとに研究されてきた内容を、有機的に結び付けていくことで、各部会の活動が、より実践的なものになり、研究内容が実際の指導の中で定着していくと考えられる。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年次の活動の継続 ホームページにおける情報発信 管区内への研究紀要作成による報告
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>結果はすべて本校独自のアンケートによる</p> <ul style="list-style-type: none">・校内授業評価の公開により、各教員の授業改善への取組が進んでいる。・少人数指導における、コース選択制について、生徒の9割弱が満足している。・少人数指導において、全生徒の75%がよくわかると効果を実感している。・少人数指導において、全生徒の72%が今後も続けていきたいと感じている。・選択教科の教科選択動機において91%が主体的選択を行っている。・選択教科（補充中心）受講者の96%が学習によって多様な力が身についたと感じており、中でも55%の者が基礎的な力が身に付いたと感じている。・選択教科（発展中心）受講者の97%が学習によって多様な力が身についたと感じており、中でも35%の者が学習する意欲が身に付いたと感じている。・生徒専門委員会による生活チェック表の利用や、朝読・朝学への積極的な取組によって、落ち着いた学習環境が生徒主体でつくられている。

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none">・校内授業評価の積極的な運用と、内容の改善、授業改善の具体的な取組・少人数指導による評価法の研究（指導と評価の一体化）・選択教科履修幅の拡大・選択教科に於ける基礎・基本の徹底のための方策・長期休業を利用した補充学習の実施
--

学力把握のための学校としての取組

<p>教研式標準学力検査集団基準準拠テスト（NRT検査）（全学年、年1回、4月） 教研式標準学力検査目標基準準拠テスト（CRT検査）（1・2年生、年1回、1月）</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>地区協議会（平成16年1月28日実施） HPの公開（平成16年度） 研究紀要の作成・配布（平成17年1月）</p>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無